

グループ紹介

多久東部 ジュニアバレーボールクラブ

▼ぜひ1勝をと、頑張るメンバー



目標をもって練習 日々成長が楽しみ

「多久東部ジュニアバレーボールクラブ」は、東部小と納所小の合同チームで、3～6年生の児童14人が所属しています。納所小からの送迎や、当番のお父さん・お母さんの協力もあり、火曜と木曜は午後5時から7時30分まで、土曜と日曜は午前9時から12時まで東部小体育館で練習に励んでいます。チームのモットーは、「感謝の気持ちを忘れない」、「挨拶をする」、「向上心を持とう」です。

友貞靖彦監督、今井久・永倉功コーチ指導の下、ランニング、体操・ストレッチ、パス・サーブの練習と基礎の練習をしっかりとした後、試合形式で実践力をつけます。監督は「それぞれに目標を持って練習しています。出来なかった子どもが出来るようになり、日々成長してくれるのが楽しみ」と話し、6年生最後の大会となる久光杯が間近に迫っており、練習の成果を出して勝てるように頑張っています。

バレーボールは一生楽しめるスポーツです。興味のある方はぜひ体育館へ見学に来てください。

問 川原 幸恵 ☎090-4350-5869

ふ・わ・あ・い・ひ・ろ

●連載20● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

書聖・中林梧竹没後100年記念

「多久に残る梧竹の書」①草場家との交流

小城市小城町出身で、書聖とうたわれた書家・中林梧竹（1827～1913）は、来年没後100年を迎えます。梧竹は多久の人々とも縁が深く、多久市内にもその作品が数多く残されています。

とりわけ親しく交流していたのは、草場佩川をはじめとする草場家の人々でした。梧竹は幼少時に佩川に学んだとされ、佩川のことを非常に尊敬していました。そして佩川の子船山、孫の金台とも親しく、このため、草場家には梧竹の作品が残されていました。



写真の書「清河」には「隆経」とサインしています。梧竹が本名でサインすることは非常に珍しく、神仏や皇室に献上した作品など、特別なものにしか見られません。この作品にはきっと、梧竹の師・佩川への尊敬の思いが込められているのでしょう。

◀中林梧竹筆 二大字「清河」

多久市郷土資料館特別企画展

書聖・中林梧竹没後100年記念特別企画展 「多久に残る梧竹の書」

会場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室

会期 / 12月15日(土)～1月20日(日)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

年末年始休館 12月25日(火)～1月5日(土)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

青田なる 畔にくつきり 彼岸花
根に毒ありて 虫よけ知らず

田淵ミチ子

同じこと 繰り返し云う 母と対き
吾は老いへの レッスンと聞く

川浪 信子

愚痴を聞き お茶一杯で 帰せしあと
俄に襲ふ 娘の痛み

本村 則子

遠住みの 友より 届きし 白山木
形見となりて 我に残され

本田 静香

孫の写す 竹富の海 風はるか
果ての尖閣 荒るは悲し

尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

短日や 喧嘩に 勝つし子も泣きて
不二見恵美子

放されぬ ネットカチーフや 秋の風
森山 抱石

秋夕焼 バルン 追ふ子に チャイム鳴る
納富 芦風

好物のおこわが 届く 敬老日
野田キヌ子

誕生日 孫の手摘みの 秋桜
田中久美子

川柳

《多久市川柳会 互選》

道の駅 実りの秋が あふれてる
高塚チカ子

古里の 秋を包んだ 柿送る
西山 残月

地方紙に 包んだ果が 今朝届き
大谷 和

秋の空 入道雲は 去っていく
古井のぶこ

アルバムに 幸せだった頃の僕
松下 修